

## 【第155回対策本部会議】 5月2日

施策アドバイザー／国は、5月8日から新型コロナの感染症法上の分類を2類相当から5類に移行する。

県では、感染状況等を常に分析し、コロナの特性に合わせメリハリある対応をしてきた。アルファ株やデルタ株は、重症化リスクの高い変異株だった。しかし、オミクロン株は、感染者数は多いが、軽症または無症状が多く、重症化にはほとんど至らなかった。同じコロナでも、特性が違えば、対策も別にするべき。今後もオミクロン株のように重症化リスクの低い株なら、一般的な対策でよい。

そこで、新型コロナ対策本部は5月7日で閉じる。8日以降は、情報連絡室が情報収集を行う。状況が急変すれば、直ちに必要な体制を構築する。

健康福祉部長／8日以降の医療提供体制は、これまでの発熱外来等の限られた医療機関での特別対応から、幅広い医療機関での対応に移行する。

- ・医療費等：外来・入院が自己負担へ。

新型コロナ治療薬等一部のものは、9月末まで公的支援が継続。

- ・入院調整：原則医療機関が調整。

医者が入院の必要を判断した場合、医療機関間で調整。入院の必要がなければ自宅療養する。これは、季節性インフルエンザと同じ対応。

医療機関での調整が困難な場合は、県が調整する。

- ・受診・相談体制：佐賀県受診・相談センターに一本化する。

自宅療養支援センターは、7日をもって廃止。受診相談や体調に不安がある場合、受診・相談センターに連絡を。

自宅療養中の陽性者で、体調急変等で相談が必要な場合も受診・相談センターに相談を。

生活物資支援、療養証明、無料検査、陽性者登録も7日で終了。

- ・ワクチン接種：令和6年3月末まで無料。

重症化リスクのある方は、年2回（5月～と9月～）

5歳以上は、年1回（9月～）

- ・宿泊療養施設：隔離のためのホテル療養は、7日で廃止。

5類に移行しても、安心できる医療提供体制を維持している。また、ゲノム解析は引き続き実施する。強毒性の変異ウイルスを確認したなど特別な対策が必要な場合、その都度情報提供する。

新型コロナウイルス対応医療提供体制強化本部事務局長／「プロジェクトM」は、新型コロナウイルスに対応する医療提供体制を緊急時に構築する目的で、2020年4月3日に知事が設置、運用してきた。これを7日で閉じる。

「プロジェクトM」は、主に病床の確保を調整。感染症病床は24床から始まり、現在、28の医療機関で577床を確保。これは、人口10万人当たりで全国1位。

オミクロン株からは自宅療養者が増えたため、外来、往診が可能な医療機関97を確保。医療機関の役割分担を明確にし、入院や療養場所の判断と、重症者専用の病床への移行等の入院調整を円滑にした。早期治療と入院調整で重症化予防に努めてきた。

8日以降の医療体制は、軽症者以上の入院を受け入れる病院として、県内全ての96病院を目指す。酸素吸入が必要な中等症Ⅱに対応できる病床は、303床を確保済み。また、外来往診が可能な医療機関も441。入退院の調整もほかの病気と同じように、かりつけ医とご本人が相談する。このように、新型コロナウイルス感染症の治療が、幅広い医療として一般的に対応できるようになる。

「プロジェクトM」では、多くの医療機関がコロナ診療に対応していただいた。その結果、「幅広い医療機関が診る疾患」へとスムーズに移行できると思う。また、関わってきて方々が多く、その経験がプラスになると考えている。

文化・観光局長／「GO!!佐賀旅キャンペーン」の利用条件が、8日以降は、本人確認のための身分証の提示だけになる。キャンペーン期間は4月1日から6月30日まで。予算の執行額が上限に達した場合、予約の受付を停止する。

これまでの県民の皆様のご支援に感謝する。

産業労働部長／“佐賀支え愛”感染対策認証制度は、7日で終了。3,600店の飲食店の皆様にご協力いただいた。今後の感染対策は、店舗ごとの判断になる。8日以降は、入り口付近に張っている認証ステッカーを剥がすようお願いする。

教育長／5類移行に伴い、8日からは換気や手洗いなどの基本的な対策を除き、特段の感染症対策は不要になる。校内の消毒作業も不要。

4月1日から、教職員・児童にはマスクの着用を求めている。各学校を訪問したが、ほとんどの子どもがマスクをしていた。周囲の目が気になったり、習慣で着用したりする子が多いのだろう。子どもの健全育成を考えると、表情はコミュニケーションの大切な要素。マスクを外してもいいのだと子どもたちに伝えていく必要があると痛感した。市町や学校現場と連携しつつ、機会あるごとに子どもたちに伝えたい。

男女参画・こども局長／保育所や幼稚園では、半数がマスクを着用しているところ、ほとんどマスクしていない園、一定数着用しているところなどそれぞれ。

幼児期の子どもは、いろいろなものを感じながら成長する時期。顔や表情が見えるのは大切なこと。マスクを外すことを推奨していく。

坂本副知事／飲食店の皆様へのメッセージが、マスク着用やパーティションを推奨しているように見える。例示の列举を外しましょう。

知事／新型コロナウイルス対策本部会議は、第155回をもって一旦最終回にしたい。第1回目の開催から1,146日目、約3年2か月の間、累計感染者数は約26万2,000人。当初は、先が見えない未知の病気にピリピリした雰囲気だった。パンデミックは、これまで世界で何度か起きた。実際にその渦中にいて、得た知見や経験を蓄積し、後世に引き継ぐ大切さを痛感した。

コロナ禍でマスク生活の中、子どもたちはお互いの顔も知らないうちに卒業した子どもがいる。ふだんから人と人が付き合う交流の大切さ、すばらしさ、そんな社会を取り戻すよう努力しなければならない。

コロナは、アルファ株からデルタ株、オミクロン株と変異してきた。特性が違うのに、コロナとひとくくりにし、向き合ってきたことに課題があるのではないか。

オミクロン株の変異を去年から注視してきた。重症化リスクの少ない形で推移し、変異のない状態が続いているため、この度、5類へ変更となった。

今後、定点監視になり、日ごとの感染者数の発表はない。完全にゼロにはならないだろう。今後も分析は続け、重いリスクのある変異株が出たときには迅速に対応する。

これまで、日々分析し、予測し、常に先手で対策を実行した。佐賀県は一貫して、医療環境を守ることを主目標として掲げた。コロナ診療にとられるあまり、通常診療、救急医療に手が回らなくなり、救える命が失われてはならないから。

この目標達成のため「プロジェクトM」による病床の確保、重症化の防止に努めた。また、ワクチン接種のスピードアップ、佐賀型フォローアップシステムを構築し全数把握を廃止するなど、佐賀県独自の分析形態による取組を行い、成果を上げてきた。

これらは、医療関係者や市町職員、様々な皆さん方の連携、県民の皆さんの協力により成し遂げられたこと。

この間、最前線で休むことなく対応いただいた医療従事者、介護現場、保健所や市町の皆さん。コロナに感染された方、感染した家族の看病、施設に面会に行けなくて苦し

い思いをされた方もいる。子どもたちは学校に行けず、楽しみにしていた行事もなくなった。行動制限がかかり、飲食店や旅館、ホテルの事業者も苦境に陥った。

様々な出来事があったが、コロナ対策にご尽力、ご協力いただいた全ての皆様方に感謝する。

佐賀県では、厳しいコロナ禍で対策に全力を尽くしながら、一方で、ピンチをチャンスに転じるために次への布石を打った。事業者へのチャレンジ支援や、SSP 杯、Lives Beyond（ライブスビヨンド）、OPEN-AIR（オープンエア）の諸政策など、様々なプロジェクトが輝き始めた。

ゴールデンウィーク後も明るいニュースがある。SAGA サンライズパークが、5月13日にグランドオープンする。5月6日からは、佐賀バルナーズのBI昇格のプレーオフ初戦が開催される。皆さんも応援に行き、新時代のアリーナを体感してほしい。

コロナ禍で再認識した人と人が助け合い、協力し合う、この佐賀らしさを、未来への取組に生かすよう尽力する。今後とも、危機管理に万全を期していく。